

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標	「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～		
教育方針	1. 学力の充実を図り希望進路を実現させる	2. 学校行事・部活動を充実させる	
	3. 基本的な生活習慣を確立させる	4. 安心できる学校生活を確立させる	

2 中期的目標 (R3～R5 年度)

1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

(1) キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。

3年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

※学校教育自己診断 (生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定率 90%以上を維持する。(H30:86% R1:89% R2:90%)

(2) 将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を養う。

ア 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。※国公立大学の現役受験者数 R5年度には40人をめざす。(H30:40人 R1:24人 R2:17人)

※国公立大学及び関西5私立大学(関学・関大・同志社・立命・近大)への現役進学者数をR5年度には100人に引き上げる。(H30:52人 R1:84人 R2:61人)

イ 総合的な探究の時間にキャリアについての学びの機会を設け、自分の希望進路に関連づける。その際SDGsについての理解を深め、国際的な視点でのキャリア感覚も身に付けさせる。

2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

(1) 自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア 志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での自学自習を充実させる。

※学校教育自己診断 (生徒)「学校の授業は分かりやすい」の肯定率をR5年度には75%以上に引き上げて維持する。(H30:66% R1:69% R2:72%)

イ 論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力を育成する。

※学校教育自己診断 (生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率をR5年度には80%以上に引き上げて維持する。(H30:65% R1:71% R2:77%)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。

ア 大学入試改革に対応するためだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICTを活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会を活かす授業の推進を図る。※生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心がある」の肯定率80%以上に引き上げて維持する。(H30,R1:76% R2:79%)

イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業等が主催する研修・講演会等への積極的な参加により、新たな指導について研究する。

ウ 教員用タブレットPC導入によりICTの有効活用について研究し、学びの充実を図る。

(3) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア 全ての教科で新学習指導要領に対応した、観点別評価による「指導と評価の年間計画(シラバス)」を作成し、評価の方法を確立する。特に「主体的な学び」についての評価方法の確立について研究を深める。

3 心豊かでたくましい人間性の育成

(1) 他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア 生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。

※学校教育自己診断 (生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率80%以上を維持する。(H30:75% R1:82% R2:76%)

イ 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。

※学校教育自己診断 (生徒)「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」の肯定率85%以上を維持する。(H30:82% R1:86% R2:83%)

ウ 海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

(2) 情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア 情報の授業において、専門家による講演で生徒が加害者にも被害者にもならない対策をとる。

イ 情報社会への対応に備え、情報社会で通用する人材を育成するため、ICT有効利用など教職員の情報に関する指導力を向上する。

(3) 安心できる学校生活を確保し、基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。

ア 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させる。

※学校教育自己診断 (生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」の肯定率をR5年度には75%に引き上げて維持する。(H30:67% R1:70% R2:73%)

イ 基本的な生活習慣(挨拶、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動、授業態度等)の改善・定着するようにこれまでの取組みを進める。

※年間遅刻数2,000回以下を維持する。(H30:2,636回 R1:2,453回 R2:1,783回)

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

(1) 本校の教育活動について積極的に情報発信し、地域に活動の理解を広げるとともに、魅力ある学校にする。

ア 学校説明会の実施方法の工夫の一つとして在校生による中学校訪問を定着させ、生徒の成長を発信する。

イ HPの充実を図り、魅力を発信する。

※学校教育自己診断 (保護者)「学校のHPは充実している」の肯定率をR5年度には70%に引き上げて維持する。(H30:なし R1:68% R2:67%)

ウ メール配信を定期的実施し、保護者との連携を深める。

(2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア 授業や部活動、生徒会活動などを通して、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ 裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

ウ 地域と連携した防災・減災教育の充実を図る。

5 校務の効率化

(1) 部活動指導・諸会議など多くの場面で校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保するとともに、教職員の健康増進を図る。

※教職員のストレスチェックの総合リスクの値をR5年度には100以下にして維持する。(H30:113 R1:111 R2:111)

(2) 各分掌、学年での年間業務を整理し、働き方改革で勤務時間の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業はわかりやすい」(生徒)の肯定率が72%から77%と今年も大きく伸ばすことができた。1人1台端末の導入に合わせて、授業力向上の職員研修や授業研究週間などに学校あげて取り組んだ成果がでた。 「発表する機会がある」(生徒)では77%から81%とこちらも着実に伸びており、授業内でアウトプットする機会を充実させていることがわかる。特に「総合的な探究の時間」では昨年度より3年間を見通した計画を立てて学校を上げて取組みを進めている。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校は進路に関する情報を提供している」(生徒)において肯定率が89%から92%と伸びている。今後とも、共通テストを含む各大学の入試状況について最新の情報を提供していかなければならない。提供の方法として教育産業の資料を有効活用することを進めたいと考えている。教員にはそのスキルを高めることを促進したい。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談において「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」(生徒)で73%と昨年と同程度であった。教職員の、生徒に寄り添う姿勢はできているが、今後も「いじめアンケート」「学校生活に関するアンケート」などを定期的の実施して生徒のSOSを見逃さずにキャッチする状況を維持したい。 部活動関係の指標においては「部活動に積極的に取り組んでいる」77%から79%、「部活動を通じて成長している」81%から84%と伸びており、活動に制限がある中でも効率的な練習をしたことで満足度が増していると考えている。実際、運動部であれば各種大会での上位進出、文化部でも発表会など地域での貢献での場が多くあった。さらに高みを目指せるよう環境整備をしてバックアップしていきたい。 「人権の大切さを学ぶ機会がある」(生徒)では76%と同程度だった。HRでの学習や毎月の「人権だより」発行は例年通りに行っている。引き続きあらゆる教育活動ですべての生徒の人権が守られた状態を維持していきたい。 「文化祭や体育大会は活発で楽しい」では83%から70%と下がった。今年度もコロナの影響を受け、文化祭が中止となり、体育大会も順延の末、規模縮小で実施したことも影響していると考えられる。そうした中でも、生徒は様々な工夫をするという姿勢が見られた。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校へ行くのが楽しい」(生徒)では83%から81%に微減した。様々な制約を受けた学校生活であったことを考えると、評価できる範囲と考える。文化祭は中止となったが、時期をずらして文化部の発表の場を設けるなど、どのすれば実施できるかということを生徒にも考えさせ、工夫をして実施にこぎつけた点などが評価される所ではないかと考える。 「校長は理念や明確な考えを持っている」(教職員)68%から69%とほぼ横ばい。「学校運営に教職員の意見が反映されている」(教職員)44%から62%と大幅増となった。引き続き、運営委員会を中心に、教職員の意見を的確に吸い上げ、スピード感を持った学校運営を心がけるとともに、校長のリーダーシップを発揮したい。 「教員間で授業方法等の検討する機会を持っている」(教職員)65%から81%と大きく上昇した。観点別評価に向けての準備、1人1台端末の導入というタイミングであったので、各教科での検討は今まで以上に行われた。次年度以降も常に学び続ける教師集団を形成したい。 	<p>第1回(6/4 書面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国公立大学への受験者数が半減した中で志望者に重点的な対策を行うことは理に合っている。入学直後から進路対策を開始するなど早めの対応、意識改革が必要だ。1年ごと、学期毎、毎月の学習準備の計画表を提出させ、その都度実施内容を点検し、アドバイスなどが考えられる。また保護者への説明会、講演会なども積極的に開催してほしい。 「国際的視点でのキャリア感覚」という言葉について、言葉の定義があいまいに感じます。総合的な探究の時間で、SDGsへの理解を深める取組みをされているようなので、その内容について教えていただきたい。 「主体的な学び」についての評価方法の確立は、大変重要なことだと思います。この研究についての具体的な計画があれば、教えていただきたいです。 人権教育で「感性に訴えるプログラム」の具体的な内容をご教示いただきたいです。 裏山は、「地域の宝」と思っています。地域住民がもっともっと関心を持つPRをお願いしたい。 災害物資の備蓄状況(裏山の柴や釜、飲料水等)や、生徒さんたちが活用できるような場がありますでしょうか これまでの連携事業を通して、参加された方々の自然環境への関心が高まり、地域の活性化にも寄与していただいています。また学生さんにとっても、学校外の子どもや大人との出会いが学びにつながっているのではと思っています。 去年は教職員一丸となり前代未聞の感染症対策をやり遂げたことと敬意を表します。今年も引き続きの対応を期待します。 <p>第2回(11/18)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあり予算が限られていると思うが、先生方には消毒などの感染対策を取りながら、生徒の学校生活の充実と学力向上に向けて、様々な努力をしていただき感謝をしています。 中学校でも感染症対策は取っている。道具の貸し借りの時などでは特に気を使うが、大事なポイントは食事前の手洗いなので、その点は徹底させている。 生徒の学習に対する評価方法が高校でも来年度1年生から変更されるということだが、中学校ではすでに始まっている。4観点から3観点になり、中学校でも試行錯誤中だが、高校の対応など情報の共有をこれからもお願いします。 通学路でのマナーについて、苦情等は来ていないか。自転車通学者が多いと聞くが、事故等はないか。 地域の歴史を次世代に継承するためにも、高齢者から聞き取るというような作業を高校生に手助けしてほしい。 刀根山高校の裏山やピオトープは、地域の財産でもあります。公民館行事の他こども園、小学校から地元自治会のイベントまで多くの場面でお世話になっています。今後とも、感染の様子を見ながら関わりを続けていただきたい。 <p>第3回(2/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観点別学習評価の中で「主体的に学習に取り組む態度」をどう評価するか議論はどのように進んでいますか。中学校でも先行実施で取り組んでいます。 ⇒教科から出されたものを共有して学校として全員が取り組める態勢ができました。これまではどちらかと言うと定期考査の成績中心の評価でしたが、これからは取組み内容、振り返り、パフォーマンス課題などがこれまで以上の割合で評価の対象になります。 シラバスは公開していますか。公開しているならその方法はどのようなものですか。 ⇒大阪府教育センターのHPにて府立学校全てのシラバスが公開されております。 全部で3回の学校見学会のうち2回がweb開催で最終の3回目だけ学校にお越しいただいたとのことですが、参加者は減りましたでしょうか。 ⇒オンラインによるweb開催、学校での開催ともに参加者数としては昨年までとほぼ同数でした。感染拡大防止の観点から、クラブ員と一緒に活動することがなかなかできない状況ですが、見学のみなら可能ですので、来年度は見学する機会を今年より増やすように検討しています。 刀根山高校の先生方のストレスチェックにおける総合リスク値が「115」ということですが、そもそも教職員という仕事はストレスを受けやすい職場なのではないでしょうか。大阪府全体の中ではないかがでしょうか。 ⇒このストレスチェックは全国規模の調査で、全ての事業所の平均を「100」としてそれより大きい値の場合はリスクが高いことを表しています。大阪府の平均が「105」ですので、本校のリスクは少し高めであると考えられます。この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響により「常ならず」の状況続いており、教職員もストレスの多い環境にあります。今後とも産業医とも相談しながら、職員の負担感の軽減に努めていきたいと考えています。 近隣の小学校では、ピオトープを作り維持管理をしているが、刀根山高校の生物エコ部のご協力をいただいて、日本生態系協会賞をいただいた。引き続き、地域連携という観点からも生物エコ部のご協力をお願いしたい。 PTAとしてもイベントが減ってしまっているので、校内の日々の消毒などでお手伝いすることがあれば協力できるかもしれません。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 生徒が夢と志を抱き、 させるための進路指導の 確立	(1) キャリア教育充実と 具体化 3年間の進路指導計画 の更新 主体的に進路を実現する 指導の充実	(1) ・個別のガイダンスを展開し学年全体・学校全体で課題 を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・センター試験に代わる共通テストへの移行に伴い、私 立大学入試対応も含めたカリキュラムの見直しを進 める。	(1) ・学校教育自己診断(生徒)「学校で将来の 生き方について考える機会がある」 肯定率 92% [90%] ・カリキュラムを改訂し、教科書を選定す る。	・肯定率は92%。コロナ禍の影響で一部実施できなかったも のもあるが、振り返りなどをしっかりと行うことで、目標 を達成することができた。(○) ・カリキュラムの改訂、教科書の選定は順調にできた(○)
	(2) チャレンジする力と粘 り強さの育成 ア 行きたい大学へ進学する ためのガイダンス実施 イ 「総合的な探究の時間」と の連動	(2) ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明する とともに、3点(起床・自宅学習開始時刻・就寝)を 自律的にチェックし、良い学習習慣を確立させる。2 学期段階での学習時間を伸ばす。 ・1年時に大学訪問し、大学のイメージを具体的に する。 ・成績及び進路に関して教科担当者による面談を実施す る。 イ・希望進路の調査を深め、夢や志を具体化する。	(2) ア・1年生2学期段階での平日・休日の自宅 学習時間を確保させる。 平日 60分・休日 90分[新規] ・国公立大学現役受験者数 40人[17人] ・国公立及び関西5大学への現役進学者 80人[61人] イ・「総合的な探究の時間」で進路の理解が 深まった。肯定的な評価 50%[新規]	ア・学習時間は平日 63分、休日 95分 1年生で行っている3点固定指導は学習時間の確保だけ でなく、基本的な生活習慣の確立にも寄与している(○) ・国公立大学受験者数は24人。依然としてコロナ禍の影 響があり、安定志向が強く目標に達しなかった。(△) ・国公立と関西5大学への現役進学者数は63人。こちら も上記理由により目標に届かなかった。(△) イ・肯定率は63.2%。2年生は地域の課題探究を通して 自己理解だけでなく、進路を考えるうえでも大いに 役立った。(◎)
2 「確かな学力」の 育成とそのための 教員の授業力の 向上	(1) 学習意欲の向上 ア 必要な学力の獲得と授業 第一主義の確立、自学自習 の充実 イ 論理的思考力・課題解決 力・自分の意見や考えをま とめて表現し伝える力の育 成	(1) ア・より分かりやすい授業展開と自宅学習の促進で学力 向上を図る。 ・自習室の活用を推進し、自学自習を支援する。 イ・論理的思考力・発信力・課題解決力を育成する。 ・授業の中で、ディベートやプレゼンテーションをはじ めとした手法も用いて「考え、表現する力」を養成する。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業は 分かりやすい」肯定率 74% [72%] イ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の 考えをまとめたり、発表する機会があ る」肯定率 80% [77%] ・「総合的な探究の時間」における第1 学年の肯定的な評価 85% [83%]	ア・肯定率は77%。昨年に続きコロナ対応として1人1台端 末などのICT機器を効果的に活用できた。(○) イ・肯定率は81%。探究以外の授業でも意識して取り入れて いる(○) ・肯定的な評価は86%。年間のプログラムが確立し見通しの 効く授業になった(○)
	(2) 授業改善 ア ICTを活用した効果的・効 率的で興味を持てる授業の 推進 イ 他校での先進事例の視察 や、教育センター並びに教 育産業等が主催する研修へ の参加 ウ 教員用タブレット PC 導 入による ICT の有効活用 についての更なる研究	(2) ア・大学入試改革を把握し、変化に対応できるよう授業を 改善する。 イ・Web等で全国の先進事例を学び、効率的に授業改善を 進める。またその研修内容を発表する機会をつくり、 共有を積極的に進める。 ウ・教員用のタブレット PC をどう活用できるかを研究す る。	(2) ア・生徒向け授業アンケートの「授業に興味・ 関心が持てるようになった」肯定率 80%[79%] イ・年2回の授業研究週間と研究協議の実施 ・アクティブラーナーを閲覧する教員 20名以上[新規] ウ・教員用端末の有効的な活用について研修 を実施する。	ア・肯定率の平均は80%。導入されたタブレットなどのICT 機器を効果的に活用できた。(○) イ・探究についてとICT機器を活用した授業の見学の機会を 設定し、それぞれの研究協議も合計2回実施した。(○) ・アクティブラーナーの利用は18人とどまったが、利 用者は先進事例を学んだ。(△) ウ・Web会議システムを活用してオンラインによる研修を実 施した。(○)
	(3) 多面的・多角的な学習 評価の工夫 新学習指導要領に対応し た観点別評価の確立	(3) 全ての教科で観点別評価による「指導と評価の年間計 画(シラバス)」を作成し、令和4年度以降の本格実 施に備える。特に「主体的な学び」についての評価方 法の確立についての研究を進める。	(3) ・観点別評価の試行を行い、体制を確立 する。内規の完成[新規単年度] ・観点別評価の中で特に主体的な学びをど う測るかについて研修を行う。[新規]	・観点別評価の導入に伴う内規の改訂に着手し校内の議論 を得て完成した。(○) ・CM委員会主導で全体研修と教科ごとの研修を重ね、新し い評価方法を確立させた。議論する過程を通して指導方法 についても教員間の認識を合わせることができた(○)

府立刀根山高等学校

3 心豊かでたくましい人間性の育成	(1) 他者理解と多様性の尊重 ア 感性に訴えるプログラムの提供 イ 各種行事への積極的な参加 ウ 国際交流による国際的な視野の育成	(1) ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。 イ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。 ウ・夏季に10日間オーストラリアにて語学研修を継続実施し参加者が有意義と感じるプログラムを計画する。コロナ禍で実施不可の時は、代替案を検討する。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定率80%[76%] イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭や体育大会は活発で楽しい」肯定率85%[83%] ウ・参加者アンケートの回答「十分に満足」70%[R1:63% R2:中止]「参加して自分が変わった」50% [R1:46% R2:中止]	ア・肯定率は76%と目標に達しなかった。ただ、あらゆる教育活動に人権への配慮を行っている(ジェンダー、障がい、外国籍、拉致問題等)ので、生徒は安心して学校生活を送っており、ほぼ目標は達成したと判断できる(○) イ・生徒全体の肯定率は70%と大きく目標に達しなかった。これは、文化祭と文化発表会が中止、体育大会・遠足が延期になるなど制限が多かったことが原因。こうした中でも文化祭の発表の機会を個別に設けるなど生徒会執行部を中心とした多くの生徒が様々な工夫して取り組み、ほぼ目標は達したと判断できる。(○) ウ・海外での語学研修に替わって、1年生希望者によるグローバル体験プログラムを行った。満足度は97%(○)
	(2) 情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実践 イ 情報社会への対応	(2) ア・SNS等の活用について、教科「情報」の授業において、専門家を招聘して1年生に講義講演を行う。 イ・情報の専門性を持つ教職員を確保し、教職員の専門性を高めるための研修を催す。	(2) ア・1年生対象に専門家による講義講演を1回は実施する。 イ・新設された情報部から教職員向けの研修を実施する。	ア・1年全体に対して外部講師によりクラス単位で「安全教室/高校生を取り巻く環境」講義を実施して1人1台端末におけるリテラシー向上させた。(○) イ・上記「安全教室」を職員研修として見学した。また10年目研修「ICT機器と1人1台端末環境下での活用方法の検討」を全体の職員研修としたことによって教員全体の指導力の向上につながった。(○)
	(3) 安心できる学校生活の確保と基本的生活習慣の定着・改善と規範意識向上 ア 教員の寄り添い姿勢充実による相談体制の充実 イ 基本的生活習慣の改善と定着	(3) ア・学年及び委員会など校内の組織及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。 ・教育相談委員会を核とし、スクールカウンセラーの指導・助言のもと、ケース会議の開催などにより課題を抱える生徒を支援する。 イ・遅刻数を減少させるために生徒指導部からの発信を強化する。	(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」肯定率75%[73%] イ・遅刻数の前年度より減少させる。 1,783以下[1,783回]	ア・肯定率は73%で目標に達しなかった。ただ、養護教諭の協力、SCとの連携が一層充実した。また、教育相談連絡会、相談委員会では各ケースを把握し、学校全体での連携体制が整った。今年度原級留置生徒が減少するなど、課題を抱える生徒を支援する目標はほぼ達成したと判断できる。(○) イ・昨年度は3年生の遅刻が非常に少なく2,000回を大きく下回った。今年度はコロナ不安の影響が少なからず見受けられ、特に2年生の遅刻が多く総数が2,285件となった。(△)
4 魅力ある学校づくり 地域に開かれた学校づくり	(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信 ア 在校生(1年生)の中学校訪問 イ HPの充実による魅力の発信 ウ 定期的なメール配信による保護者との連携強化	(1) ア・在校生(1年生)による中学校訪問を実施し、生徒の成長や生の声を提供して本校の魅力を発信する。 イ・HPの更新頻度を上げ、本校の魅力を発信する。 ウ・毎週末にメールマガジンを配信し、学校の様子を保護者にお知らせする。	(1) ア・生徒(1年生)の出身中学校訪問を90%以上 イ・学校教育自己診断(保護者)「学校のHPは充実している」70%[67%] ウ・メールマガジンを定期的に発行する。	ア・コロナ禍の影響で中学校訪問はできなかった。(ー) イ・肯定率は63%。校長ブログなどを通して学校情報を広報したが低下した。試合結果なども含めてクラブ活動の状況が伝わるように更新頻度を上げるなどして今まで以上に興味を持ってもらう内容にしたい(△) ウ・毎週末の定期発行は実施でき、好評を得ている。また、緊急時の連絡もこれを使って行うことができている(○)
	(2) 地域との交流・連携の推進 ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進 イ 裏山を活用した環境教育の推進と地域交流	(2) ア・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。 ・生徒のボランティア活動をサポートする。 イ・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。コロナ禍で実施不可の時は、HP等を利用して引き続き本校の魅力を発信する。	(2) ア・コロナ禍で、地域との交流連携の機会を持ちにくい、実施方法を工夫して模索する。 イ・グランドなど体育施設の開放や裏山の活用を通じた地域交流を継続する	ア・授業・部活動・PTAなど多くの場面で、地域の学校や福祉施設との交流が、感染対策を取った上で実施できた(○) イ・体育施設の開放は、コロナの影響と工事の関係で実施できなかった。一方、裏山での交流(近隣こども園・地域公民館行事)は実施でき、特に生物エコ部の近年の取組みが認められ、今年度は「とよなかエコ市民賞」を受賞した。(◎)

府立刀根山高等学校

<p style="text-align: center;">5 校務の効率化</p>	<p>(1) 校務の効率化と教職員の健康増進</p> <p>(2) 各分掌、学年の年間業務の整理</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全クラブとも部活動に係る活動方針を遵守し、年間における休養日を105日以上確保する。 ・諸会議の運営方法を見直し、教職員の長時間勤務の縮減を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間業務を一覧表にして、業務の効率化を検討する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のストレスチェックの総合リスクの値を110以下に引き下げる。 [111] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間業務を一覧表にして、学校経営委員会で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合リスク値は115と少し悪化した。但し、休職者は発生していない状況で、高ストレス者には面談案内をした。(△) ・学校経営委員会は週に一度定期開催し、校内の諸課題の検討し業務の効率化に寄与した。また「育てたい生徒像」についての研修も企画実施したことによって、教員間の認識を合わせることができ同僚性が高まった。(○)
---	--	---	---	---